

家庭学習の手引き

復習・予習新しい 学びにチャレンジ

2020年度 改訂版



【使い方】

この学習の手引きでは、家庭での学習の意義、内容、方法を紹介しています。表紙の裏面から基本的な学習のポイントをまとめてあります。別紙で掲示用も配布します。家の目につくところに貼って確かめながら、実践してみてください。

もっと詳しい家庭学習の方法や、テスト勉強のやり方、提出ノートのやり方などを知りたい人は、各教科ごとの解説編に書かれているので読んでみてください。

【保護者の方へ】

お子さんの学習方法について、家庭で指導していただく際に参考にしてください。

年 名前

大町市立八坂中学校

「主体的・対話的で深い学び」のための家庭学習

1. 新しい学び

2021年度から全面実施される新しい学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」に取り組むことを求めています。これからの社会では、「予測できない未来」が到来するため、受け身で社会の流れに対応するのではなく、「主体的に問いを立てて、他者と協働しながら解決していく力」を育てることが必要不可欠であるとされているからです。「主体的・対話的で深い学び」とは、「課題の発見・解決に向けた主体的・協働的・創造的な学びであり、習得・活用・探究という学習プロセスに沿って自ら考えを広げ、深める対話を通して、多様な資質・能力を育てる深い学び」であるとされています。

新しい学びでは「協働の学び」あるいは「能動的な学び＝アクティブラーニング」が必然的に授業に組み込まれます。友だちと関わり合い対話しながら学び合う、八坂中学校ではこのことを「聴き合い」と呼んでいます。この「協働的な学び」がなければ深い学びが生まれません。逆に言えば、「協働的な学び」があって、初めて深い学びが生まれ、更にそれが定着すれば主体的な学びのサイクルが出来上がります。新しい学びが求めている学力が身に付くわけです。授業で協働の学びを中心に据えて実施していくためには、すでに先進的な多くの大学・高校で実践されているように、もとなる「知る、できる」部分の知識、技能、内容を身に付けることや調査などを事前に行って授業に臨むことも考えられます。つまり、これまで以上に家庭学習において予習的な学習の要求が出てきます。長野県の生徒は予習が苦手だといわれています。復習はもちろん、予習型の家庭学習ができる生徒を育成したいと考えています。これまで通り、復習による授業内容の定着とスキルアップを図るためのワークブックの問題を解くドリル学習や教科から出されるこれまでのような提出ノート、自学ノートはもちろん続けます。それに加えて新しいこれらの家庭学習に取り組むことによって、さらなる真正な学力の向上を目指していきます。

【家庭学習】

教科の提出ノート	教科の家庭学習ノート	⇒	教科担任からの指示で教科担任に提出
自学ノート（全教科1冊）		⇒	個々の計画により実施担任に提出

2. 学力を定着させるために、家庭の学習環境を整えましょう。

基礎学力を定着させ、新しい学びの「学ぶ力」を育てるためには、家庭での学習習慣が大きな役割を果たします。全国学力テストでも家で計画を立てて家庭学習をしている生徒ほど正答率が高い傾向が見られるという結果が出ています。学校では子どもたちの主体的な学びを育て、学び方を身に付けさせると同時に、家庭では子どもたちの基本的な生活習慣を確立し、決まった場所で一定の時間、学習に集中して取り組むことが重要です。

- 学習をする時はテレビなどを消して、学習する場の整理整頓をし、集中できる環境を整えましょう。
- 毎日の生活習慣を見直し、勉強をする場所や時間、テレビやゲームをする時間などを決めましょう。
- 読書をする時間を決めて、静かに本を読む習慣も身に付けましょう。
- 授業の予習や復習、自学などの習慣を身に付けさせましょう。

3. 子どもの家庭学習を見守り、励ましましょう。

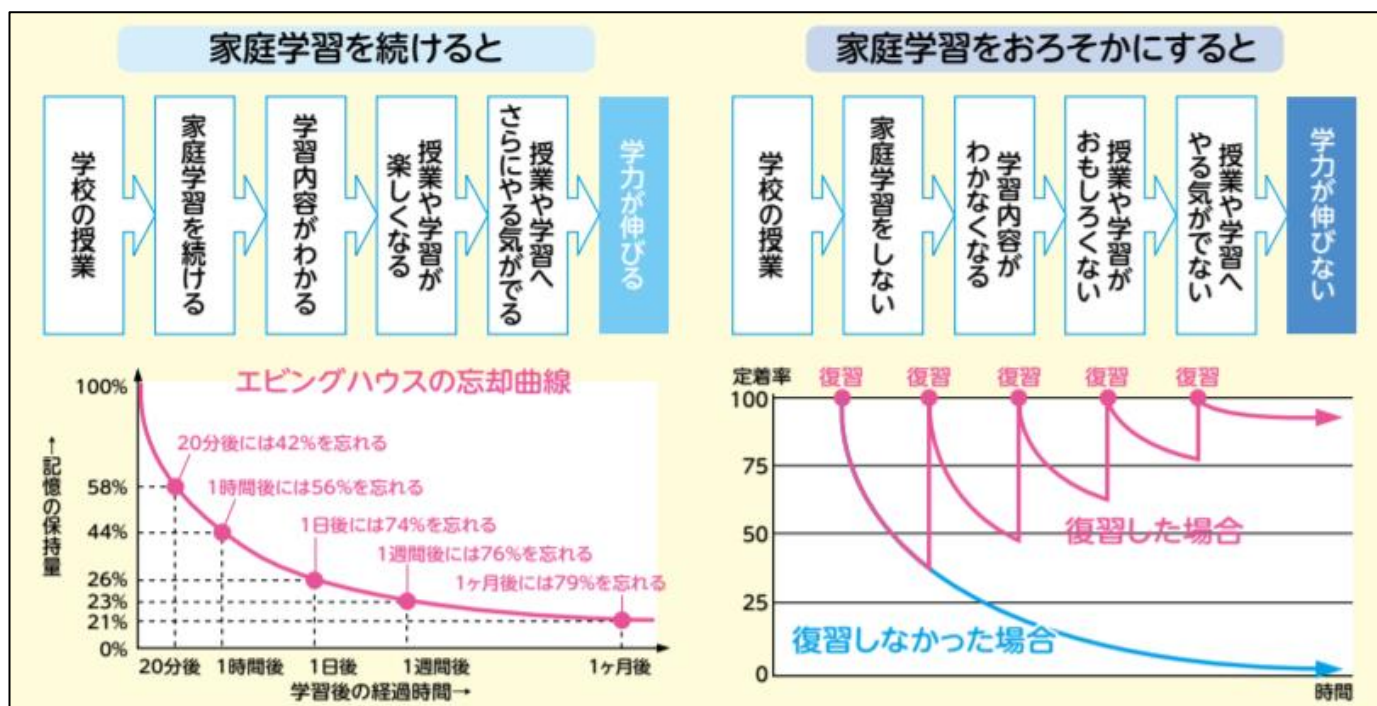
「自ら学ぶ子どもたち」を育てるために、子どもたちが一番安心して生活できる家庭で、安定した生活リズムの中、毎日継続して学習に取り組むことはとても重要なことです。そのポイントとして「頑張りなさい。」より「〇〇〇〇をよく頑張ったね。」と認めることを大切にしてください。学校での頑張り、家庭学習、家での手伝い等を褒めるようにしましょう。そうすれば、「自分で何をするかを考え、自分に自信をもてる子」になり、自分で未来を切り拓くようになります。

1. 目標をもち、計画的に学習する習慣を身に付けよう

学校の授業で身に付けた内容を復習することや、繰り返して練習することで学習内容が定着していきます。また、新しい学びでは、友達との対話である「聴き合い」を大切にした授業の準備のための予習的な取り組みや授業の振り返りをする課題も出てくる場合があります。

- 各教科から出された家庭学習をあとまわしにせず優先し確実にやり遂げよう。⇒ 提出・家庭学習ノート
- 時間を有効に使って学習しよう。自分で目標や追究・研究課題を設定し、それに向けて取り組む学習へ進んでいきましょう。⇒ 自学ノート

2. 毎日、学習をコツコツと続けて、学力を向上させよう！



ドイツの心理学者ヘルマン・エビングハウスの有名な記憶の実験からもわかるように、復習したり、繰り返し練習したりすることで学習内容が定着します。このことから学校の授業と家庭学習の両方が大切なことがわかります。

3. 記憶の定着は、学習より少し後に起こる。だから家庭学習が大切！

「記憶直後」と「記憶から一定時間経過後」では、後者の方がよく記憶を想起できる場合があります。このような現象を、「レミニセンス現象」と言います。レミニセンス現象が何故起こるか簡単に説明すると一定時間の経過、特に睡眠や休憩によって集中力の低下や飽きなど、記憶の想起を邪魔する要素が減ってくる。脳内で記憶が整理され、記憶を想起しやすい状態になるということです。一定時間とは、数時間から数日間と言われています。例えば、こんな経験がある人もいないかと思います。昨日まではうろ覚えだったのに、今日は何故かスラスラ思い出せる。何回挑戦してもできなかったことが、次の日に何となくやってみたらサラッとできてしまった。これを学習に置き換えてみると、授業で学習した内容が一定時間をおいたあの方が、理解できるということになります。つまり一定時間を置いた家に帰った後や次の日の方が記憶を想起でき、学習が効果的に進むことがあるということです。だからその力を使って効率よく家庭学習で確かな学力をつけていきましょう。

定期テスト前の家庭学習ココがポイント

1. 教科書やワークブック・プリントを中心に！

定期テストは、日頃の学校の授業の内容をどれだけ理解しているか。まだ、学習したことを利用して、問題を解くことができるようになったか。さらに、新しい学びでは身に付けた力を使って設定された条件のもと課題を解決する力をみます。難しい言葉ですが、新しい通知表の評価でいうと、知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度についてテストを通して確認します。

各教科で使っているワークブックや学習プリントをわかるまで、教科書や資料集で調べたり、繰り返し解いたり、練習したりすることがまずは重要です。さらに、授業で実施した振り返り課題などをもう一度見直してみたり、やってみたりすることも大切です。余裕があれば、それ以外の問題にもチャレンジするといいいでしょう。テスト前、1カ月を過ぎてからテスト範囲の学習内容をまとめるノートづくりをしてもあまり効果はありません。問題をやりつづけ、不明な点については、教科書やノートにもどって確認する方が効果的です。

2. 計画を立て、早めに取りかかろう！

テスト範囲と計画表は、今年度から 1カ月前には配布 されるようになりました。十分な時間があります。テスト範囲は、前回の定期テスト以降の学習が中心となるので、まずは日々の家庭学習をしっかりとやっていくの基本です。その上で次のポイントを大切にしてください。

その 1	長期計画から 短期計画へ	まずは、テストまでの1ヶ月間の計画を立てます。その計画にそって、1週間→1日と計画を立てていきます。テストの範囲を最低2回以上は復習できるような計画をたてよう。
その 2	無理な計画は厳禁	無謀な計画は作るだけムダです。部活や習い事などある人は、特によく考えて、現実的な計画を立てましょう。そして、初めのうちは、少し余裕があるぐらいがいいでしょう。張り切りすぎて中途半端に終わると何にもなりません。
その 3	軌道修正をこまめに	計画を立てたら、計画通り実行することが最も大事なことです。でも、実際やってみると無理なところや簡単どころが出てきます。そんなときは、計画にあまりこだわらずに、もう一度計画を練り直しましょう。

表の内容に気をつけて、計画を立てスケジュール管理を徹底して学習を進めていくわけですが、次のポイントにも気をつけてみるといいと思います。

☆成果を目標にする

中学生の多くは「○時間勉強する」と勉強時間を決めることがありますが、これは効率的ではないです。「社会科の宿題が終わった」「明日提出する課題が終わった」「ワークブックのP.○～P.△まで勉強した」など、出来上がった課題や取り組んだ内容のことを成果と呼びます。成果を目標にすることで着実に内容を学習することができます。

☆やる気が無いときでも1問だけ解いてみる

中学生は忙しいですね。部活動もあって、クタクタになって家に着き、やることもいろいろあり、次の日も朝早いし、今日はムリだと思う日もあると思います。そんな日でも気になる教科の問題を1問だけ解いて寝る。これ結構効果ありますよ。できたらやってみてください。調子が出てきて2問・3問と進んだら儲けものラッキーとなります。

国語科

～ 確かに自分の力となる家庭学習に ～

日常生活の多くが国語とかかわりがあります。普段から以下のようなことを少し意識してみることで、あなたの国語力は、いつの間にかアップしていることでしょう。

- ・新聞やインターネットのニュース記事などを読む。
- ・教科書内や出版社の小冊子などの読書案内のほか、図書館内に掲示・展示してあったり、友達・先生から勧められたりしたおすすめ本なども参考に、いろいろなジャンルの本を読む。
- ・国語辞典・漢和辞典を手の届く所に置き、読めない漢字や意味の分からない言葉があったら、こまめに辞書を引く。
- ・生活ノートを毎日しっかり書く。できるだけ漢字を使って書く。休日など時間に余裕があるときは、テーマを決めて書いてみるのもよい。(例えば、「わたしの友達紹介」、「今週 のトピックス」、「イチオシコミックス」など)

1 家庭学習の内容と進め方

(1) 基本的な家庭学習

① 教科書の予習・復習として ～新しい単元に入ったら～

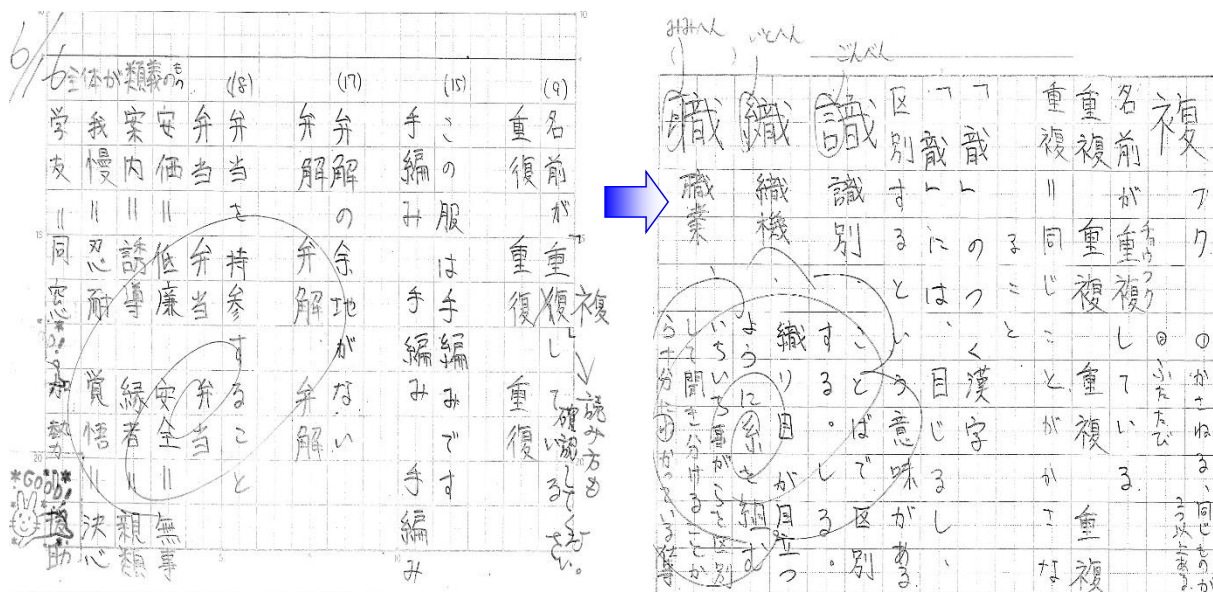
音読と新出漢字・難語句の確認

- ・授業で友達と一緒に音読したところを、自分1人で音読する。
- ・1・2年生は、「基礎の学習」のその単元の最初に出てくる漢字・語句のところと、最後の「全体をとらえよう」を行う。3年生は、授業で配布されたワークシートAの漢字・語句の部分を行う。

② 平日を中心として ～授業最初の漢字ドリルに合わせて～

漢字学習

1日1ページをめやすとする。国語の授業があるときに提出。



上の漢字学習は、ある3年生の2日間の(6/16・6/17)の提出ノートの一部です。どのような工夫をしているでしょう。

ア、いちばん参考にしてほしいのは、間違いをすぐに改め、同じまちがいを繰り返さないようにしている点です。左では「重復」と間違っ練習していますが、私の指摘を受け、左側の翌日のノートでは、正しい「重複」をすぐに練習しています。そればかりでなく、読み方や用例、意味もしっかり確認しています。

社会科

1. 家庭学習の基本

(1) 社会科を学ぶ意義

社会科は覚える事柄が多い教科です。ただし、語句や用語を暗記するだけではあまり意味がなく、社会科の力はつきません。社会科で大切なのはつながりを考えることです。そのつながりを考える土台として知識が必要になります。これらの知識を言語的知識、記述的知識といいます。社会科を学習する上で大切なことは、地図や統計など各種の資料から必要な情報を集めて読み取ること、社会的事象の意味、意義を解釈すること、事象の特色や事象間の関連を説明すること、ペア・グループ・一斉学習を通して、自分の考えをまとめ論述することです。地理・歴史・公民の3分野ともさまざまな社会的事象に関心をもつことで、同じ覚えるにしても「ひと」「もの」「こと」のつながりがわかり、「なぜか」を理解した方が興味関心もわき、社会事象の見方・考え方が広がり、深まります。3年間の社会科の授業を通し、現代の社会をたくましく生き抜くために必要な力を身につけていきます。学習した知識を基礎とし、これから生きていく中で、物事をどのように考え、どのように判断していくかという大切な能力を磨いていきます。

(2) 家庭学習ノートの取り組み方

学校で実施している「協働的な学び」能動的な学びを引き出す「アクティブ・ラーニング」では、ペア・グループワークで学んだ知識の活用をし、課題を解決していきます。そして授業や単元の終わりには振り返り課題でより一層の知識・技能の定着や思考・判断・表現力を伸ばしていきます。このような授業に関わって、次のような家庭学習を構想しています。

☆これまでも真剣な取り組みをみせていた君たちなら必ずできる！

「社会科の家庭学習」

- ①授業で「協働の学び」を実施するために必要な知識を事前を知る、必要な技能をできるようにするための家庭学習 《 予習的学習 》
- ②授業で「協働の学び」の課題を解決するために必要な資料収集、あるいは資料作成のための家庭学習 《 予習的学習 》
- ③授業で学習した内容の定着を図る、確かめるための家庭学習 《 復習的学習 》
- ④定着した知識・技能のスキルアップを図るための家庭学習 《 復習的学習 》
- ⑤定着した知識・技能、思考・判断・表現力を使っの授業、単元の振り返り課題 《 復習的学習 》
- ⑥範囲、取り組み内容、思考ツールの使用等を指定した学習のまとめ 《 復習的学習 》

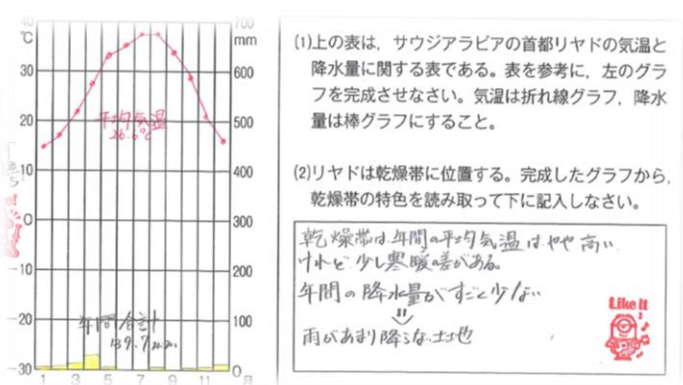
※具体的な取り組みの方法については授業中にその都度説明します。

(3) 日頃から心がけること

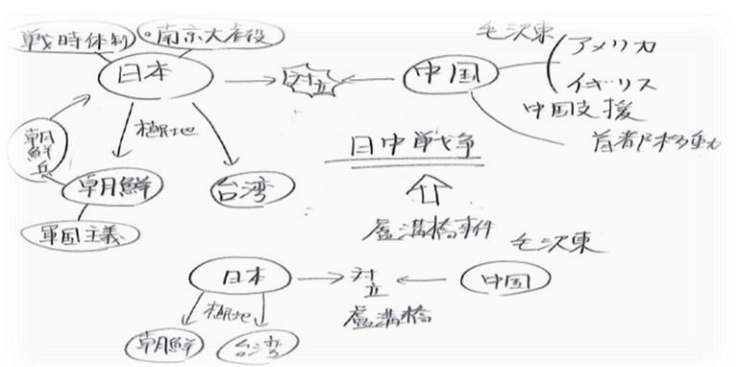
- ①地図帳や年表を身近なところに置いておき、耳にした地名、事柄、時代、年号などを確認してみる。
- ②毎日、新聞やテレビのニュース報道に目を向け、世の中の動き(政治面、経済面、国際面)に関心を持つ。
そのできごとはなぜ起きたのか、この人の意見をどう思うか、一番活躍した選手はだれか、などを考えたり、家族と話したりすると思考力、判断力、表現力のもとになる力がつきます。
- ③地理・歴史・公民に関連した番組を観ることや書物、新聞を読んでみよう。

最後に必ず「振り返りジャーナル」を書こう！

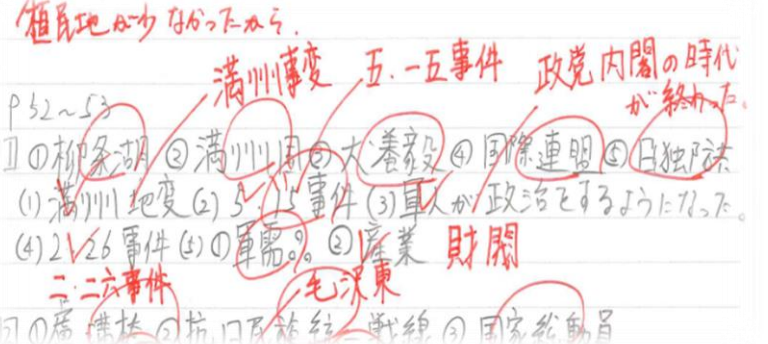
授業に必要な資料作成の学習 《予習的な学習》



学習のまとめウェビングマップ《復習的学習》

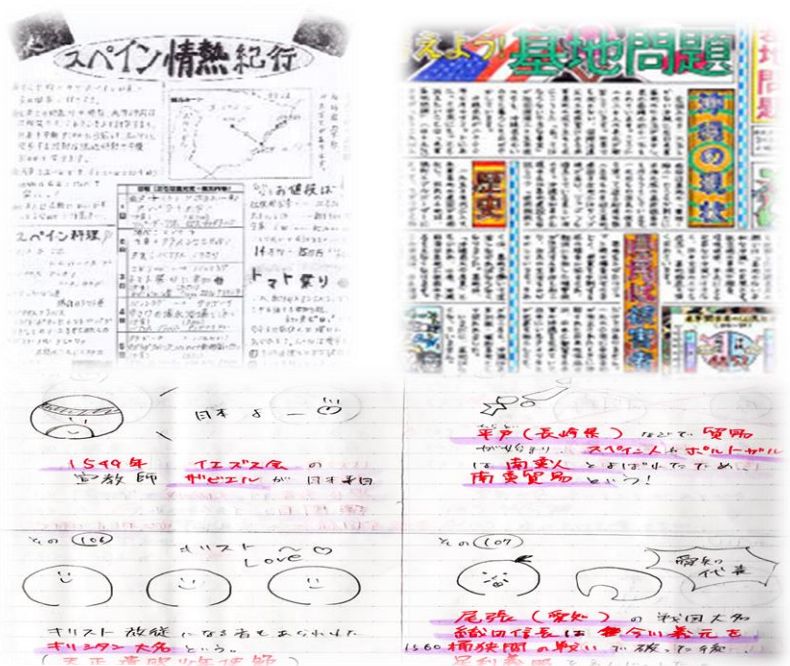


ワークブック社会の自主学習 ≪復習的学習≫



最後に必ず「振り返りジャーナル」を書こう！

自分の興味関心があることを追究し調べまとめる



数学科

1 学習の基本

① 数学科の授業ノート（プリントファイル）の構造は…

予習編

今は、全学年でプリントファイルによる授業を行っています。1 ページ目が目次（各学年の各章の紹介）ですが、2 ページ目以降は順番に閉じてあれば、見開き左が偶数ページ、見開き右が奇数ページになっています。この2 ページ単位で、タイトルの内容が見やすくなるようにしています。ということで、各授業終了時の、最終裏表紙の偶数ページは…。そう！次の時間で扱う内容になっているわけですよ。なので、そのページをざっとでも見ておくこと自体が予習になるわけです。教科書も手元があれば、なお効果的になるでしょう。また、前年度まで（2 年生は 1 年次の／3 年生は 1・2 年次の）の教科書も活用することが有効になることもありますので、手元に置いてみるのはどうでしょうか。

② 『授業ノート』の効果的活用例

授業編

プリント形式でまとめてきた、授業ノートの工夫です。数学のノートは例題にはじまり、解き方のコツを学習課題風に文言で書き、問題演習をするという流れがスタンダードです。でもどうですか、皆さんの授業ノート。特に問いたいのは問題演習欄です。答えがあっている。OK で○印のオンパレード！という見て呉れが良い、ノートになっていませんか？ミスが少ない方が良いのは、授業中とテスト時どちらか。言うまでもないでしょう。間違いは、自分が陥りやすいエラーです。それはそれで、残しておきましょう。ならば、どのような書きっぷりが良いのか、例を挙げます。

$$9 - 6 \div (-3)$$
$$= 3 \div (-3)$$
$$= -1 \checkmark$$

乗除の方が先！

$$= 9 - (-2)$$
$$= 9 + 2$$
$$= 11$$

$$(2x - 3y) - (5x - 7y)$$
$$= 2x - 3y - 5x - 7y$$
$$= -3x - 10y \checkmark$$

カッコのはずし

方

引く式の時注意

$$2x - 3y - 5x$$
$$+ 7y$$
$$= -3x + 4y$$

③ 学習内容を定着させるには

復習編

前のページにもあった、エビングハウスの忘却曲線のとおりです。問題演習の反復が、一番です。習いたてのことは行うのが、第一。余裕があれば、少し前の学習内容のことも行えると、いいですね。期間をおいての復習も、時には必要です。

2 定期テスト前の学習

1 に紹介したサイクルを確実に行うこと自体も、実はなかなか大変なことです。凡事徹底です。日常生活でも、これが一番難しいですね。でも、実践してみませんか。

特に、重点を置きたいのは、問題演習です。問題を解き、答え合わせをする。間違えたところは、やり直しをする。それでも分からない問題は、友達や先生に聞いてみる。このような姿勢から、好循環は生まれます。

3 提出ノートの効果的なやり方

① 「間違いの原因究明」という意識で問題演習に取り組もう

ノートを別途、配るようにしました。提出は、毎日。大事にしたいところは、「質」と「継続」です。問題量が多いノートを時々見かけますが、それで力をつけている人もいれば、そうでない人もいます。先の、「授業ノート効果の活用例」でも触れましたが、すべてあっていて○印のオンパレード、というものも見かけますが、逆に「大丈夫かな？」と心配になります。

それよりは、間違いの原因究明がしっかりと書かれているようなやりの方が、実力がついてくると信じます。

特にこのような学習をしてほしいのは、テスト返却直後です。本校卒業生のテスト問題やり直しを、以下のように例として挙げました。間違えから目を背けずに、どこから違っていたのかという原因究明がしっかりとできて、赤ペンで書かれています。

[illegible]

② 時には前のカテゴリーの学習内容も…

例えば、1年生で「分数の加減」が苦手だったら、小学校算数時代の復習として「分数のたしざん・ひきざん」をやる。2年生で「連立方程式」が苦手だったら、「1年時の方程式」や、ひいては「文字式」「正の数・負の数」までさかのぼるとか。3年生は1・2年次の範囲の不確実なところを、毎時間の授業で習いたてのものと並行して行っていくようにしましょう。

「学問の道に王道なし」 凡事徹底でコツコツと

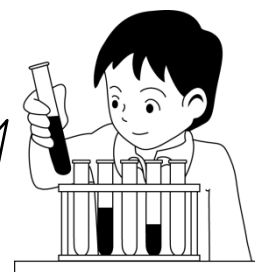
理科

1. 学習の基本

① 授業を大切にする

観察や実験があるけど、「何を確かめたり調べようとしてやってるのか」が分からないと、操作していることの目的が分からなくなってしまう。だから、まず「聴く」ことが大切にしましょう。

それと、記録(学習プリント)の取り方も大事になります。単に黒板を写すだけじゃなくて、自分の疑問や発見や気づいたことを「吹き出し」で書き込んでいこう。そうすると、自分の考えた足跡が分かりますよ。図も大きく描いて、説明を書き込んでいこう。



② 問題を解く

問題集は、1・2年生は1種類、3年生は2種類あります。1・2年生は、テスト範囲に問題集の範囲も示され、テスト前には必ず問題集を確実にやって、答え合わせもして、テスト後に提出しよう。3年生は3年だけの問題集と入試対策用の問題集があります。入試対策用の問題集(整理と対策)は定期的に学習に位置づけ、まずはそれをコツコツとやっていこう。それに加えて、授業での復習を兼ねて3年の問題集に取り組んでいこう。



③ 伝える・分かり合う

授業の中で、班や近くの人同士やクラス全体での話し合いや教え合いが大事です。この時に、自分が本当に分かっているかどうか確かめましょう。もし、分かっているなら、友達に分かりやすく伝えられます。曖昧だと、うまく伝えられない。伝えることで、自分自身も分かり、友達の考えも吸収できますよ。



2. 定期テスト前の学習

○ テスト範囲が配られなくてもできること

- ① 授業前にちょっとだけ、今日学習するだろうところの教科書をちょっと読んでみる。写真を眺めてみる。
- ② 習ったところは少しずつ復習できる。問題集の習ったところを「自学ノート」にやってみる。間違えたら赤ペンで直して、必ず正答を書くこと。(テストで必ず書くことになるから、漢字も含めてしっかり書けることが大事です。)

○ テスト範囲が配られたら…

- ① まずは、計画を立てましょう。今回、どの範囲を何回学習できるか把握することが大事です。
- ② 問題集は確実にやりきること。
- ③ 今までやってきた単元プリントをもう一度やってみること(もちろん書くこと。眺めても読んででもそれは勉強に入らない)
- ④ 間違えた所は、必ずもう一度解こう(解けるまで何度でも!)。自分が何をどうして間違えたかをチェックしておきたい。一度できた問題は、次もできる可能性は高い。一方、間違いや苦手な所は、今、克服しておこう。そのままにして、いつかできるなんてことはありません。

3. 提出ノートの効果的なやり方

1 ページを有効に使って、少しでもたくさんの問題を解くことは、とても大切です。2 段か 3 段くらいで答えを書いていくといいですね。

図やイラストで表現すると、言葉だけの理解より具体的になり、より自然現象とつながる深い理解になっていきます。

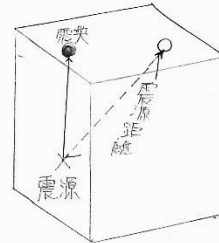
1102 地震のゆれの伝わり方

(1) A 震源
B 震央
(2) 岩盤がくずれたり
(3) 初期微動
(4) 主要動
(5) 初期微動継続時間
(6) マグニチュード
(7) 10
(8) 同心円状
(9) 同心円状
(10) 24秒後 25秒後

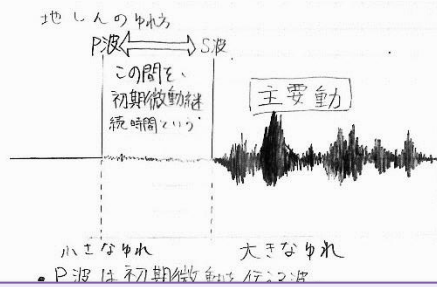
(1) X P波
Y S波
(2) P波が速い 同じ
(3) P波が始まってからS波に届くまでの時間
(4) 長くなる
(5) 震源に近いほどS波が来るのが早い

④
(1) ① P波が速い
(2) M
(3) ① A
(4) 震源が「6」で大きく震れているから
(5) B
(6) 地震層のかたさにちがいのがあるから

ポイント



地震のゆれが発生した場所を震源
震源から真上の地点を震央



自分は、今どんな目的でこの1ページに取り組んでいるのかを明確にすることが大事です。「よく間違えてしまう」問題を確実に解こうと頑張っているのか、明日の予習を見通しをもって取り組んでいるのか、当日やった授業の復習をより詳しくまとめて理解を深めようとしているのかなど、自分の頑張る姿を自覚しながら取り組むと、自信も実力もついていきます!!

理科の
復習 1ページ

115 水圧による圧力

(1) n) 水圧
(2) 空気
(3) 水圧

(1) 軽くなる。
(2) 空気には質量がある
(3) 重力
(4) 100000pa 100000
(5) 1000パスカル
(6) 水圧
(7) 全方向

②
(1) 水圧
(2) 3N ÷ 0.024 = 1250pa
(3) 1250pa

118 圧力

(1) 24N
(2) 10 × 8 = 80cm
80cm = 0.008m
0.008m
(3) 24N ÷ 0.008m = 3000pa
(4) 24N ÷ 0.004m = 6000pa (B)
(5) 1.6倍

119 圧力

(1) 水圧
(2) 水圧
(3) 水圧
(4) 水圧
(5) 水圧
(6) 水圧
(7) 水圧
(8) 水圧
(9) 水圧
(10) 水圧
(11) 水圧
(12) 水圧
(13) 水圧
(14) 水圧
(15) 水圧
(16) 水圧
(17) 水圧
(18) 水圧
(19) 水圧
(20) 水圧
(21) 水圧
(22) 水圧
(23) 水圧
(24) 水圧
(25) 水圧
(26) 水圧
(27) 水圧
(28) 水圧
(29) 水圧
(30) 水圧
(31) 水圧
(32) 水圧
(33) 水圧
(34) 水圧
(35) 水圧
(36) 水圧
(37) 水圧
(38) 水圧
(39) 水圧
(40) 水圧
(41) 水圧
(42) 水圧
(43) 水圧
(44) 水圧
(45) 水圧
(46) 水圧
(47) 水圧
(48) 水圧
(49) 水圧
(50) 水圧
(51) 水圧
(52) 水圧
(53) 水圧
(54) 水圧
(55) 水圧
(56) 水圧
(57) 水圧
(58) 水圧
(59) 水圧
(60) 水圧
(61) 水圧
(62) 水圧
(63) 水圧
(64) 水圧
(65) 水圧
(66) 水圧
(67) 水圧
(68) 水圧
(69) 水圧
(70) 水圧
(71) 水圧
(72) 水圧
(73) 水圧
(74) 水圧
(75) 水圧
(76) 水圧
(77) 水圧
(78) 水圧
(79) 水圧
(80) 水圧
(81) 水圧
(82) 水圧
(83) 水圧
(84) 水圧
(85) 水圧
(86) 水圧
(87) 水圧
(88) 水圧
(89) 水圧
(90) 水圧
(91) 水圧
(92) 水圧
(93) 水圧
(94) 水圧
(95) 水圧
(96) 水圧
(97) 水圧
(98) 水圧
(99) 水圧
(100) 水圧

116 音の世界

(1) 振動している
(2) 大きくなる
(3) 空気
(4) 340 × 2.5 = 850 850m
(5) 音の伝わる速さよりおそいため。

②
(1) 差直抗力
(2) 重力
(3) 弾性力
(4) 引力弾性力
(5) 摩擦力
(6) 磁石力
(7) 水力 電気力
(8) 水圧
(9) 水圧
(10) 水圧
(11) 水圧
(12) 水圧
(13) 水圧
(14) 水圧
(15) 水圧
(16) 水圧
(17) 水圧
(18) 水圧
(19) 水圧
(20) 水圧
(21) 水圧
(22) 水圧
(23) 水圧
(24) 水圧
(25) 水圧
(26) 水圧
(27) 水圧
(28) 水圧
(29) 水圧
(30) 水圧
(31) 水圧
(32) 水圧
(33) 水圧
(34) 水圧
(35) 水圧
(36) 水圧
(37) 水圧
(38) 水圧
(39) 水圧
(40) 水圧
(41) 水圧
(42) 水圧
(43) 水圧
(44) 水圧
(45) 水圧
(46) 水圧
(47) 水圧
(48) 水圧
(49) 水圧
(50) 水圧
(51) 水圧
(52) 水圧
(53) 水圧
(54) 水圧
(55) 水圧
(56) 水圧
(57) 水圧
(58) 水圧
(59) 水圧
(60) 水圧
(61) 水圧
(62) 水圧
(63) 水圧
(64) 水圧
(65) 水圧
(66) 水圧
(67) 水圧
(68) 水圧
(69) 水圧
(70) 水圧
(71) 水圧
(72) 水圧
(73) 水圧
(74) 水圧
(75) 水圧
(76) 水圧
(77) 水圧
(78) 水圧
(79) 水圧
(80) 水圧
(81) 水圧
(82) 水圧
(83) 水圧
(84) 水圧
(85) 水圧
(86) 水圧
(87) 水圧
(88) 水圧
(89) 水圧
(90) 水圧
(91) 水圧
(92) 水圧
(93) 水圧
(94) 水圧
(95) 水圧
(96) 水圧
(97) 水圧
(98) 水圧
(99) 水圧
(100) 水圧

そして、最後に、振り返りジャーナルを書いて、1ページ取り組んだ自分の姿を見つめましょう。

英語科

1. 学習の基本

- ① 単語(熟語)の数を増やそう。

【ポイント1】単語ではなく文で覚える

例えば『favorite=お気に入りの』とただ何回も書いていても、なかなか頭に入らないもの。

『〇〇(好きな歌手)is my favorite singer.』『□□(好きな本)is my favorite book.』のように、できるだけ自分の気持ちや身近なことに合う英文にしてみると、意味や使い方がすんなり頭に入ってきます。

【ポイント2】単語を種類別に覚える

ただ教科書に出てきた順に単語を覚えるのではなく、単語の種類(品詞)別に覚えましょう。重要な品詞は3つだけ！

- (1) (代)名詞(名前) (例)book, school, English, Japan, (I, you, he, they)
- (2) 動詞(「～する」) (例)study, eat, watch, go, write
- (3) 形容詞(「～い」) (例)big, blue, difficult, high, new

- ② 『授業ノート』を活用しよう。

これまでプリント形式でまとめてきた授業ノートには、そのパートで学ぶべき内容がすべて入っています。ぜひいろいろな方法で家庭での予習・復習にいかしていこう。

【活用例】(1)英文を見て音読練習 (2)英文を見て日本語を言う練習 (3)日本語を見て英文を言う練習 (4)日本語を見て英文を書く練習 (5)単語の意味やつづりの確認、練習 (6)ポイントを思い出して確認 (7)予習で自分で日本語を書き、授業でチェック

- ③ 『ジョイフルワーク』を授業の進度に合わせて進めよう。

新しい文法事項については授業でも慣れていくための練習をしていますが、それだけではしっかり身につけるのには不十分。家でもう一度振り返り、さらに練習をして本当に自分が理解できているかチェックすることが最重要です。『ジョイフルワーク』はそんなときにピッタリの教材です。別のノートに答えを書いて何度もできるようにするなどの工夫をしながら、ぜひ活用しましょう。

- ④ 長文を読み取る練習をしていこう。(特に3年生)

長い文章の内容をしっかり読み取る力、これは高校入試には必ず必要となる力です。特に長野県の公立入試では約50点が長文を読んで答える問題です。できるだけ正確かつスピーディに読む力をつけるために、様々なジャンルの文章を、できるだけたくさん読むことを続けましょう。

- ⑤ 日本や様々な国々に興味・関心をもち、英語学習の幅をひろげよう。

英語学習は英語という言葉だけを身につけるための学習ではなく、母国日本はもちろん世界のさまざまな国の歴史や文化を知り、自分の視野や考え方をひろげていくためにも学んでいます。教科書で扱う国について自分で調べて情報収集してみると、学習の楽しさや意義も倍増しますよ。

2. 定期テスト前の学習

- ① 1の学習を繰り返そう。

1に紹介した内容を日常的に続けていれば、テスト前にだけ取り立てて行うことはないでしょう。

特に不安なところを中心に上記1の②と③を繰り返し行い、学習内容の定着度をチェックしていきましょう。

- ② 教科書本文を暗唱しよう。

教科書本文を何度も言ったり書いたりして覚えてしまうこともとても有効な手段です。テストで似たような英文が出てきたときに、すっと頭に覚えた英文が浮かんでくればしめたものです。

3. 提出ノートの効果的なやり方

① 「できていないところをやる」意識で取り組もう。

毎日の提出ノート。出すことだけに意識が向いてしまうと、「楽なこと」「できること」「書くだけでいいこと」を短時間でやるようになってしまい、せっかくの英語力アップのチャンスである提出ノートの効果はなくなってしまいます。逆の発想で、多少時間はかかっても「自分ができていないこと」「不安に思っていること」をする努力をしましょう。

② 繰り返し練習する。

英単語や新出表現など、だれでも一度見たり書いたりしただけではすぐに身につくことはありません。大事なのは「繰り返し練習する」こと。内容が日替わりの提出ノートではなく、2・3日、あるいは一週間、自分が本当に覚えられたか確認しながら、同じ学習内容を繰り返し練習していくことも、提出ノートをより効果的にするコツです。

